

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」及び「こどもアンケート」 報告書（概要版）

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の概要

- (1) 調査目的：子育て家庭の実態や子育て支援に関するニーズ等を把握し、「広島市子ども・子育て支援事業計画」策定のための基礎資料とする。
- (2) 調査実施方法：郵送配付回収、無記名自記式
- (3) 調査時期：令和6年2月
- (4) 調査対象者：広島市内に居住する就学前児童（0～5歳）又は就学児童（6～11歳）のいる世帯
- (5) 抽出方法：住民基本台帳より、居住区及び令和5年4月1日現在の満年齢を基に区分し無作為抽出
- (6) 送付数：就学前児童のいる世帯：8,000世帯 就学児童のいる世帯：5,500世帯
- (7) 調査結果の表示方法：
○ 表やグラフ中の「n」は、回答総数を表している。
○ 比率（％）は小数点以下第2位を四捨五入で算出しているため、合計が合わないことや100%にならないことがある。
○ 表やグラフ、文章において、回答の選択肢等の表現を一部省略している場合がある。
○ グラフでは見やすさを優先し、「0.0％」の数値表示を省略しているものがある。
- (8) 送付数及び回収数：

◆ 就学前児童のいる世帯

調査区分 (こどもの年齢)	送付数	回収数	回収率
乳児（0歳）	2,500世帯	1,110世帯	44.4%
幼児（1～2歳）	2,700世帯	1,091世帯	40.4%
幼児（3～5歳）	2,800世帯	1,180世帯	42.1%
不明	—	20世帯	—
計	8,000世帯	3,401世帯	42.5%

◆ 就学児童のいる世帯

調査区分 (こどもの年齢)	送付数	回収数	回収率
小学校低学年 (6～8歳)	2,700世帯	740世帯	27.4%
小学校高学年 (9～11歳)	2,800世帯	846世帯	30.2%
不明	—	34世帯	—
計	5,500世帯	1,620世帯	29.5%

全体	13,500世帯	5,021世帯	37.2%
----	----------	---------	-------

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の調査結果

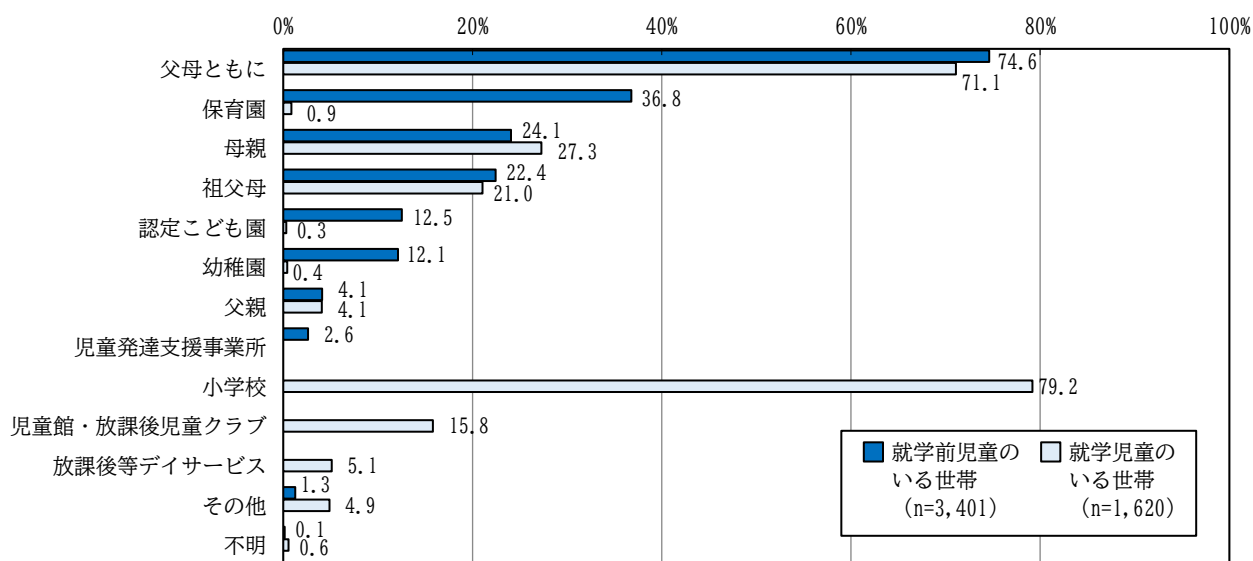
1 こどもの育ちをめぐる環境、保護者の就労状況について（対象：全世帯）

(1) こどもの育ちをめぐる環境

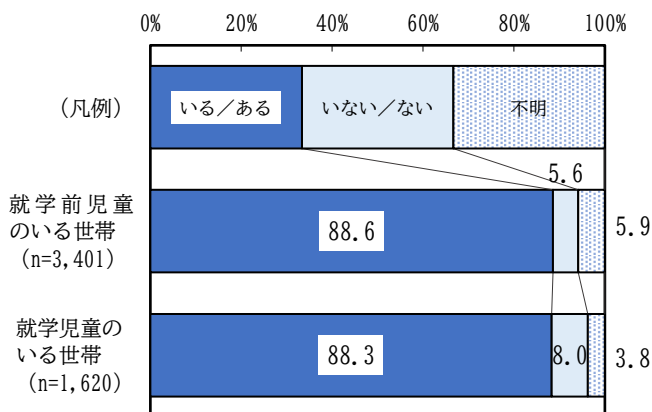
子育てや教育に日常的に関わっている人や施設について、就学前児童のいる世帯では、「父母ともに」との回答が最も多く74.6%、次いで「保育園」が36.8%となっている。就学児童のいる世帯では、「小学校」との回答が最も多く79.2%、次いで「父母ともに」が71.1%となっている。

また、子育てや教育に関して気軽に相談できる人や場所について、「いる又はある」との回答が、就学前児童のいる世帯で88.6%、就学児童のいる世帯で88.3%となっており、相談先は、「親・兄弟・姉妹等の親族」との回答が最も多く、次いで「友人や知人」となっている。

Q1 子育て（教育を含む）に日常的に関わっているのはどなた（どの施設）ですか。（複数回答）

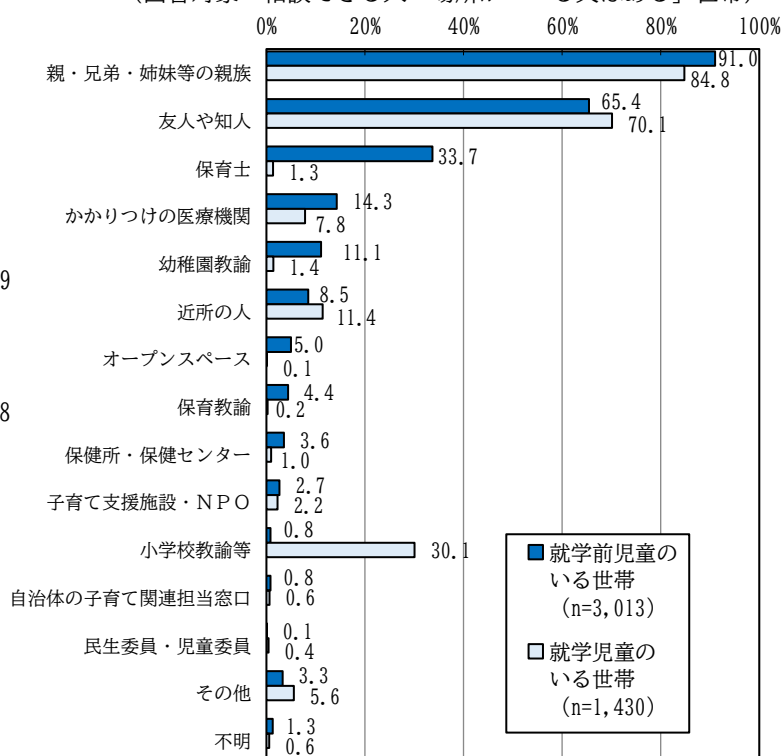


Q2 子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。



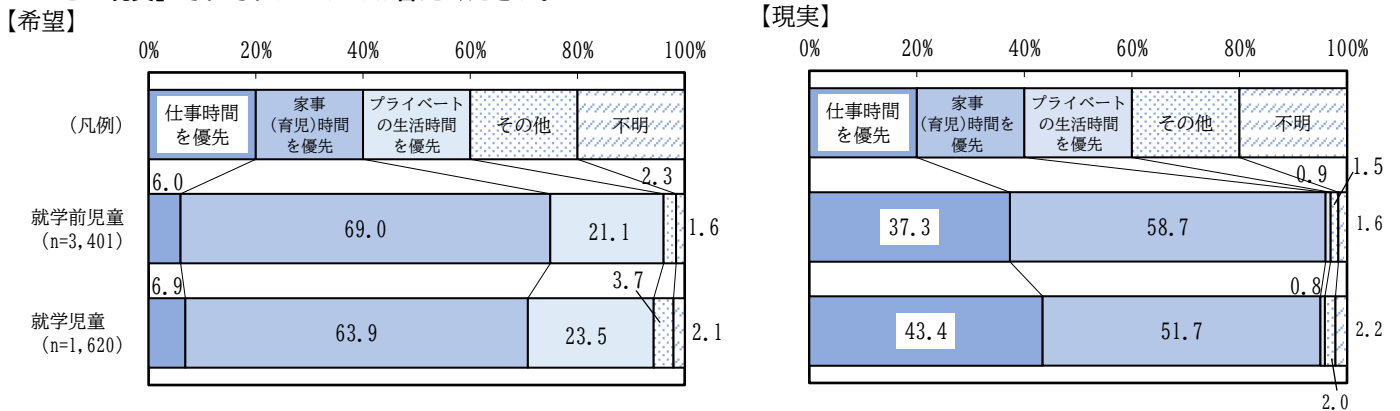
Q3 子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、どなた（どこ）ですか。（複数回答）

（回答対象：相談できる人・場所が「いる又はある」世帯）



ワーク・ライフ・バランスについて、生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の優先度は、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに、「希望」も「現実」も、「家事（育児）時間を優先」との回答が最も多くなっている。一方、「仕事時間」については、「希望」は6%台であるのに対し「現実」は40%前後、「プライベートの生活時間」については、「希望」は20%台であるのに対し、「現実」は1%未満となっており、ギャップが大きくなっている。

Q4 あなたの生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の優先度について、「希望」と「現実」それぞれについてお答えください。



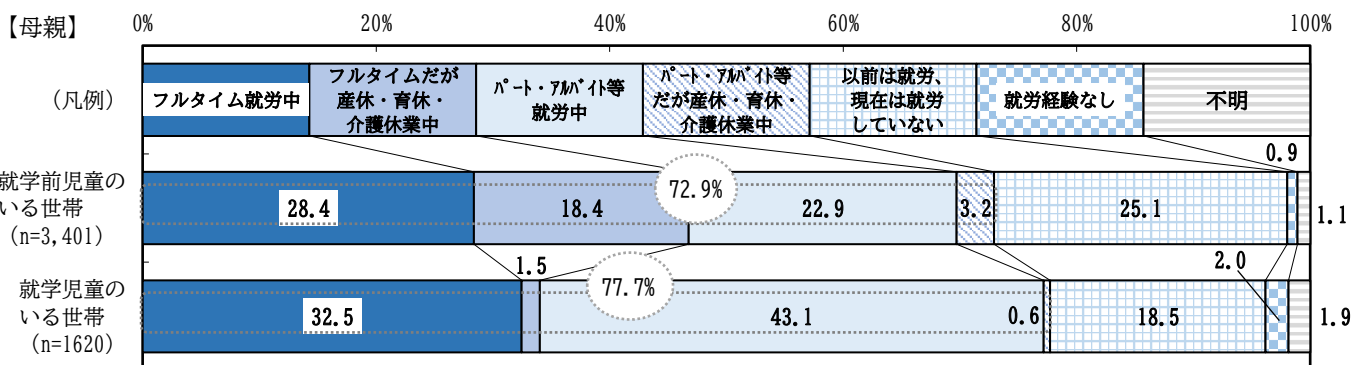
(2) 保護者の就労状況

母親の就労状況について、「フルタイムで就労中」又は「パート・アルバイト等で就労中」との回答（いずれも育休等で休業中を含む）が、就学前児童のいる世帯で72.9%、就学児童のいる世帯で77.7%となっている。

また、「以前は就労していたが、現在は就労していない」又は「就労経験なし」と回答した母親の今後の就労希望については、「一番下のこどもが一定年齢になったところに就労したい」又は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」との回答が、就学前児童のいる世帯で68.6%、就学児童のいる世帯で59.2%となっている。

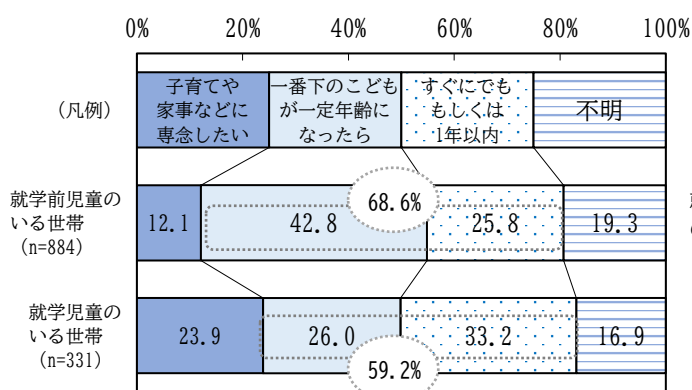
「一番下のこどもが一定年齢になったところに就労したい」と回答した母親の就労希望時期については、就学前児童のいる世帯では「こどもが2～3歳になったところ」との回答が最も多く37.8%、就学児童のいる世帯では「こどもが6～7歳になったところ」との回答が最も多く31.4%となっている。

Q5 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。



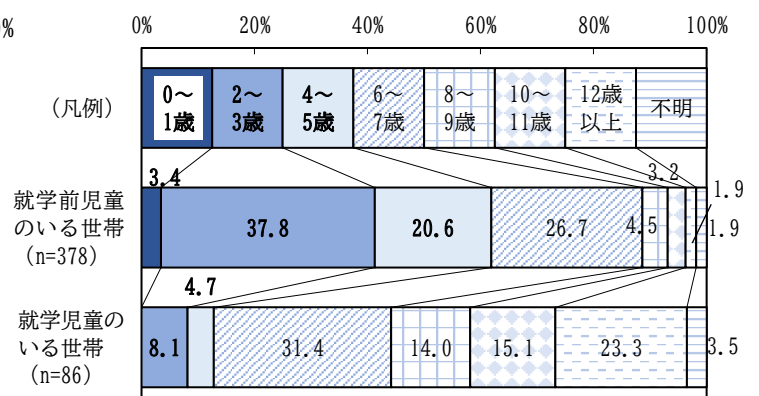
Q6 就労したいという希望はありますか。

（回答対象：現在就労していない母親）



Q7 一番下のこどもが何歳になったところに就労したいですか。

（回答対象：一番下のこどもが一定年齢になったところに就労したい母親）



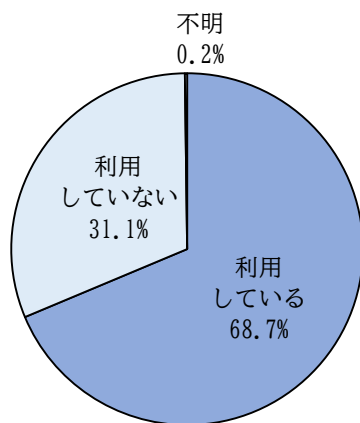
2 定期的な教育・保育事業について（対象：就学前児童のいる世帯）

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について、就学前児童のいる世帯では、「現在、定期的な教育・保育事業を利用している」との回答が68.7%となっており、そのうち利用している事業は、「認可保育園」との回答が最も多く65.8%、次いで「幼稚園」が24.1%となっている。

また、現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したいと考える平日の教育・保育事業について、第1希望から第8希望までの合計は、現に利用している事業と同様に「認可保育園」との回答が最も多く82.0%、次いで「幼稚園」が68.6%となっている。

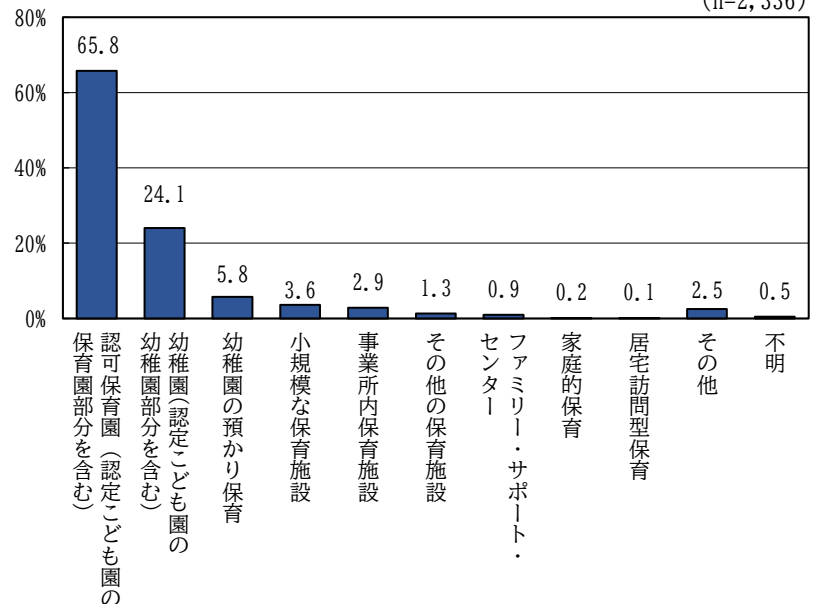
Q8 現在、幼稚園や認可保育園などの定期的な教育・保育事業を利用していますか。

(n=3,401)



Q9 現在、平日にどのような教育・保育事業を利用していますか。（複数回答）（回答対象：教育・保育事業を利用している世帯）

(n=2,336)



Q10 現在、利用している、していないにかかわらず、定期的に利用したいと考える平日の教育・保育事業について、利用したい順にお答えください。

(n=3,401)

	認可保育園（認定こども園部分を含む）	幼稚園（認定こども園の幼稚園部分を含む）	幼稚園の預かり保育	小規模な保育施設	事業所内保育施設	家庭的保育	ファミリー・サポート・センター	その他の保育施設	居宅訪問型保育	その他
第1希望	55.9%	31.7%	2.9%	2.6%	1.9%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.6%
第2希望	11.5%	17.2%	24.1%	19.7%	4.0%	0.9%	1.6%	0.7%	0.5%	0.2%
第3希望	12.0%	10.7%	13.4%	10.8%	6.5%	2.8%	2.6%	1.5%	1.0%	0.2%
第4希望	1.6%	5.4%	8.6%	12.2%	5.8%	2.7%	2.4%	1.2%	1.1%	0.1%
第5希望	0.4%	2.2%	3.3%	3.6%	7.4%	5.0%	1.9%	1.9%	1.5%	0.1%
第6希望	0.2%	0.6%	1.1%	0.6%	3.3%	4.9%	2.4%	3.5%	2.4%	0.1%
第7希望	0.3%	0.3%	0.7%	0.2%	1.1%	2.1%	3.2%	4.0%	3.4%	0.0%
第8希望	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%	0.4%	1.1%	3.7%	2.8%	4.5%	0.1%
合計	82.0%	68.6%	54.2%	50.0%	30.3%	20.0%	18.3%	16.0%	14.6%	1.3%

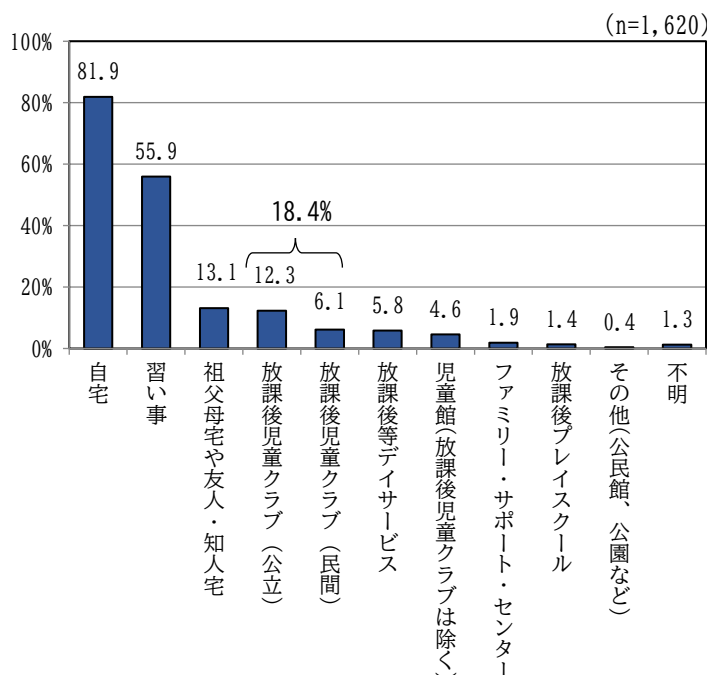
3 放課後の過ごし方、病児・病後児保育、一時預かり等について

(1) 放課後の過ごし方（対象：就学児童のいる世帯）

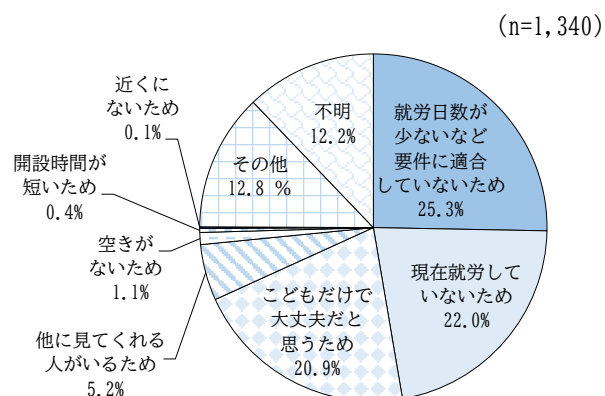
就学児童が放課後の時間を過ごしている場所について、「自宅」との回答が最も多く 81.9%、次いで「習い事」が 55.9%となっており、「公立の放課後児童クラブ」は 12.3%、「民間の放課後児童クラブ」は 6.1%で、放課後児童クラブを利用している就学児童は合計で 18.4%となっている。

放課後児童クラブを利用していない理由は、「就労日数が少ないなど要件に適合していないため」との回答が最も多く 25.3%、次いで「現在、保護者が就労していないため」が 22.0%となっている。

Q11 現在、こどもは放課後の時間をどのような場所で過ごしていますか。（複数回答）



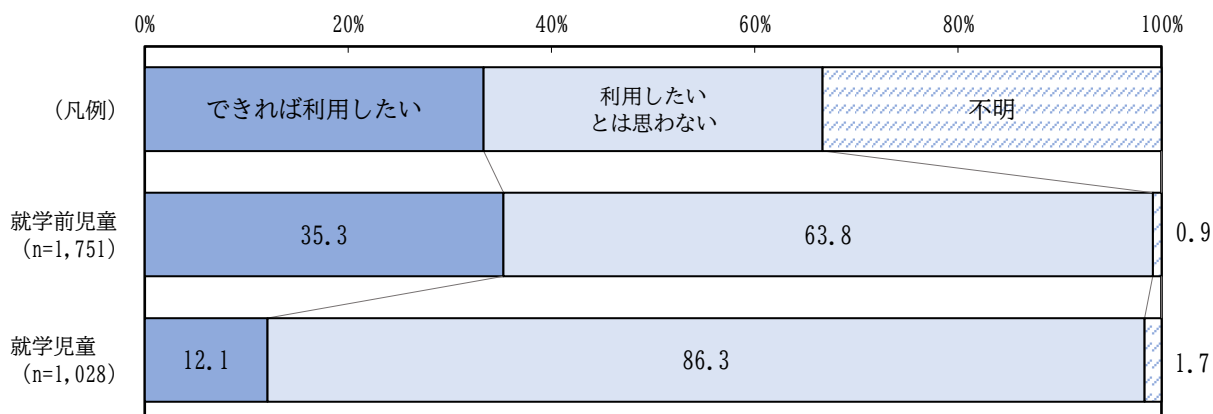
Q12 現在、放課後児童クラブを利用していない理由について、最もあてはまる理由をお答えください。
(回答対象：放課後児童クラブを利用していない世帯)



(2) 病児・病後児保育（対象：平日の定期的な教育・保育事業を利用している就学前児童のいる世帯と、就学児童のいる世帯）

こどもが病気やケガの際に父親又は母親が休んで看護したことがある世帯のうち、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったことがあるとの回答は、就学前児童のいる世帯で 35.3%、就学児童のいる世帯で 12.1%となっている。

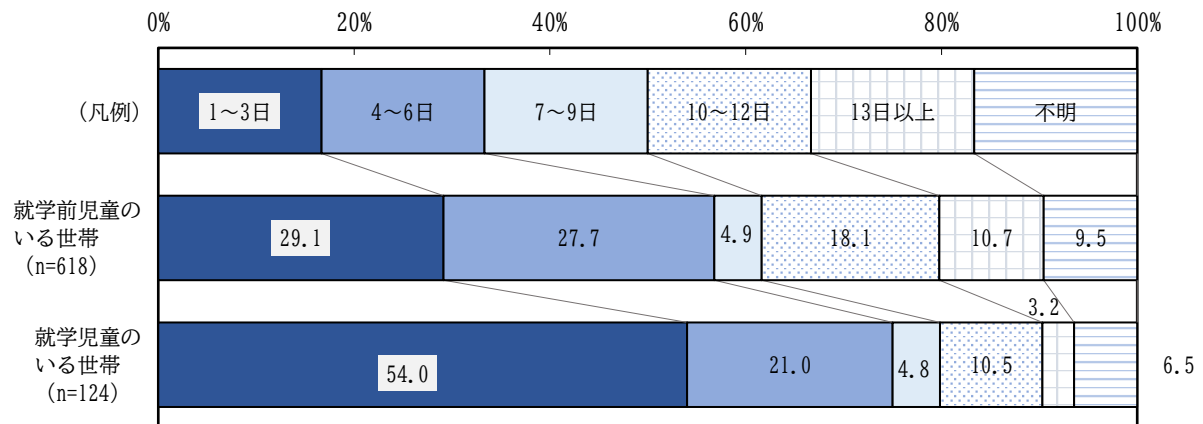
Q13 こどもが病気やケガの際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったことはありますか。
(回答対象：父親又は母親が休んで看護した世帯)



病児・病後児のための保育施設等を利用したい日数（年間）について、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに「1～3日」との回答が最も多く、それぞれ29.1%、54.0%となっており、次いで「4～6日」となっている。

Q14 病児・病後児のための保育施設等を1年間に何日利用したいですか。

（回答対象：父親又は母親が休んで看護した世帯のうち病児・病後児のための保育施設等の利用希望世帯）

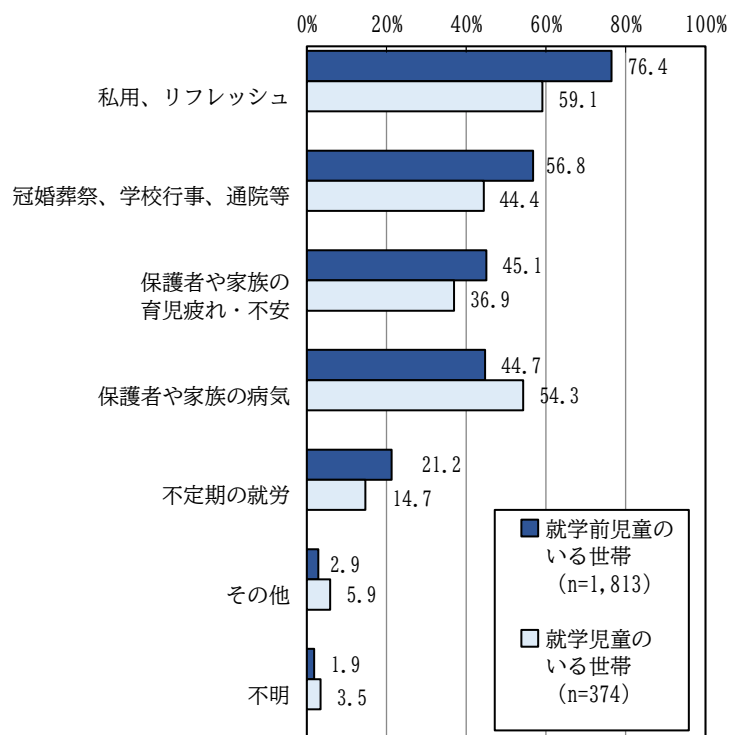
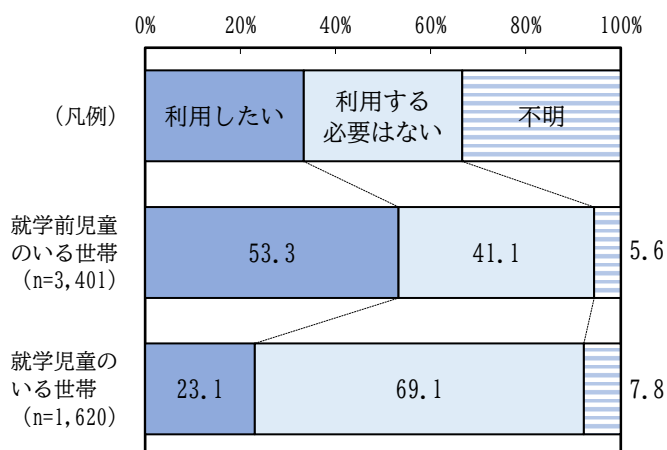


(3) 一時預かり等（対象：全世帯）

私用、こどもや親の通院、不定期の就労等による一時預かり等について、「利用したい」との回答が就学前児童のいる世帯で53.3%、就学児童のいる世帯で23.1%となっている。利用の目的は、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに「私用、リフレッシュ」との回答が最も多く、それぞれ76.4%、59.1%となっており、次いで、就学前児童のいる世帯では「冠婚葬祭、学校行事、通院等」が56.8%、就学児童のいる世帯では「保護者や家族の病気」が54.3%となっている。

Q15 私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、一時預かり等の事業を利用する必要があると思いますか。

Q16 利用の目的は何ですか。（複数回答） （回答対象：一時預かり等の利用希望世帯）



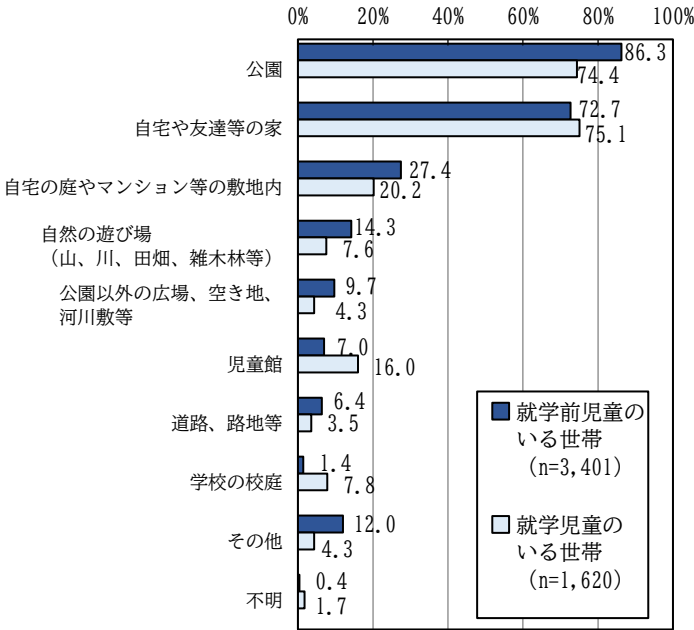
4 こどもの遊び環境、地域子育て支援拠点事業について

(1) こどもの遊び環境（対象：全世帯）

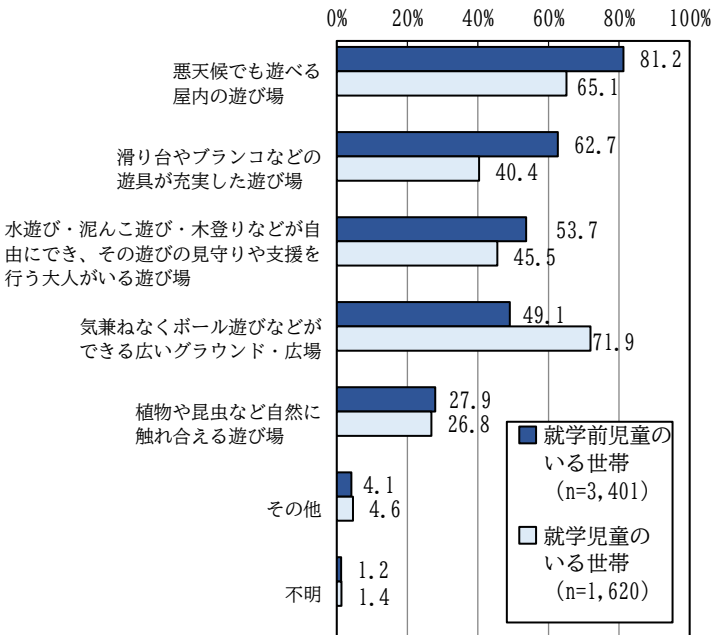
こどもの日常的な遊び場について、就学前児童のいる世帯では「公園」との回答が最も多く 86.3%、次いで「自宅や友達等の家」が 72.7%であり、就学児童のいる世帯では「自宅や友達等の家」との回答が最も多く 75.1%、次いで「公園」が 74.4%となっている。

また、どんな遊び場があればいいと思うかについて、就学前児童のいる世帯では「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」との回答が最も多く 81.2%、次いで「滑り台やブランコなどの遊具が充実した遊び場」が 62.7%、就学児童のいる世帯では「気兼ねなくボール遊びなどができる広いグラウンド・広場」との回答が最も多く 71.9%、次いで「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」が 65.1%となっている。

Q17 日常的なこどもの遊び場は主にどこですか。
(複数回答)



Q18 どんな遊び場があればいいと思いますか。（3つまで回答）



(2) 地域子育て支援拠点事業（対象：就学前児童のいる世帯）

地域子育て支援拠点事業の常設オープンスペースについて、「利用している」との回答が、0 歳児のいる世帯で 32.2%、1 歳児のいる世帯で 18.6%、2 歳児のいる世帯で 9.2%となっている。今後の意向として、「利用していないが、利用したい」と「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」との回答の合計は、0 歳児のいる世帯で 48.2%、1 歳児のいる世帯で 42.8%、2 歳児のいる世帯で 31.8%となっている。

Q19 現在、常設オープンスペース（子育て中の親子がいつでも気軽に利用することができ、自由に交流できる場）を利用していますか。

(n=3,401)

	利用している	利用していない	不明
全体	15.9%	83.1%	1.1%
0歳	32.2%	66.2%	1.6%
1歳	18.6%	80.7%	0.7%
2歳	9.2%	89.6%	1.1%
3歳以上	2.3%	97.0%	0.7%
不明	15.0%	85.0%	0.0%

Q20 今は利用していないができれば利用したい、又は、利用しているが利用日数を増やしたいと思いますか。

(n=3,401)

	利用していないが、利用したい	たがすい利で用に日利数を用をし増てやいしる	い利新と用たは日に思数利わを用な増しいやしたり、	不明
全体	28.5%	7.9%	55.9%	7.6%
0歳	48.2%	31.6%	16.6%	45.7%
1歳	33.2%	9.6%	50.0%	7.1%
2歳	27.7%	4.1%	60.6%	7.5%
3歳以上	31.8%	23.6%	0.8%	66.4%
不明	35.0%	0.0%	45.0%	20.0%

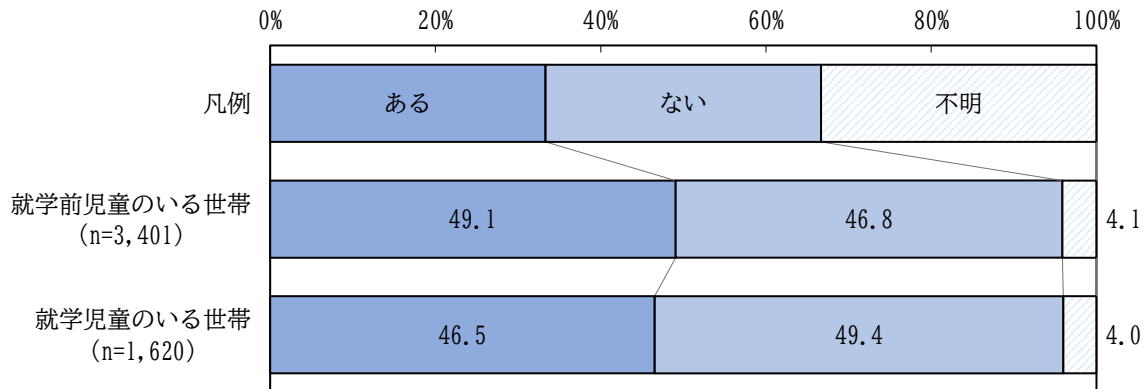
5 子育てに関する悩みや精神的負担等について（対象：全世帯）

(1) 子育てに関する悩みや不安感等

子育てに関し、悩んでいることや困っていること、不安に感じていることの有無について、就学前児童のいる世帯では「ある」との回答が49.1%、「ない」との回答が46.8%、就学児童のいる世帯では「ある」との回答が46.5%、「ない」との回答が49.4%となっており、「ある」と「ない」がおおむね半数ずつとなっている。

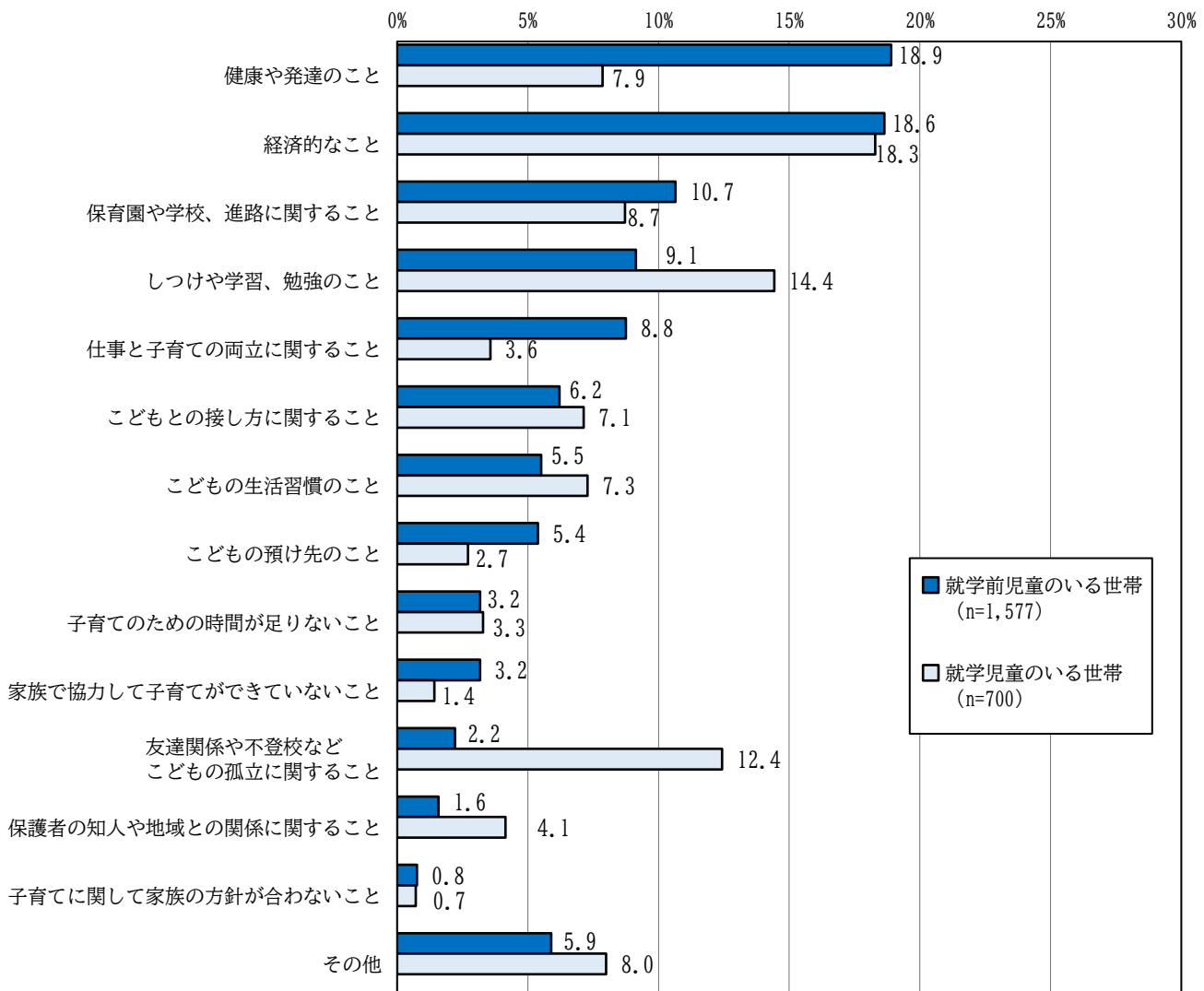
子育てに関する悩み等の内容について、就学前児童のいる世帯では「健康や発達のこと」との回答が最も多く18.9%、次いで「経済的なこと」が18.6%、就学児童のいる世帯では「経済的なこと」との回答が最も多く18.3%、次いで「しつけや学習、勉強のこと」が14.4%となっている。

Q21 子育てについて（教育も含む）悩んでいることや困っていること、不安に感じていることがありますか。



Q22 子育てに関する悩み等の内容（自由記述）

（回答対象：子育てに悩み等がある世帯）

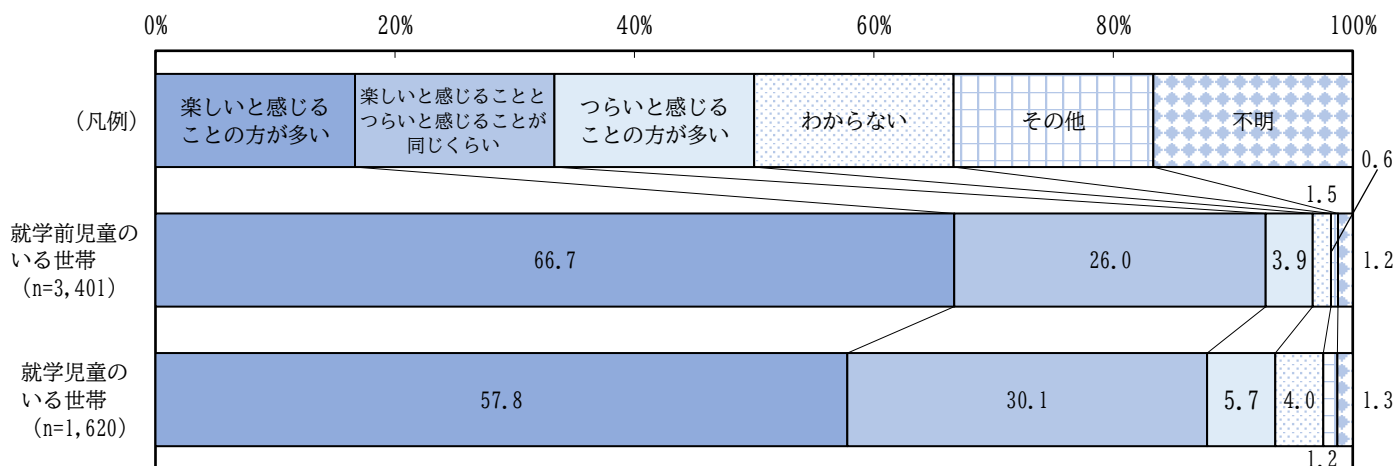


(2) 子育ての精神的負担

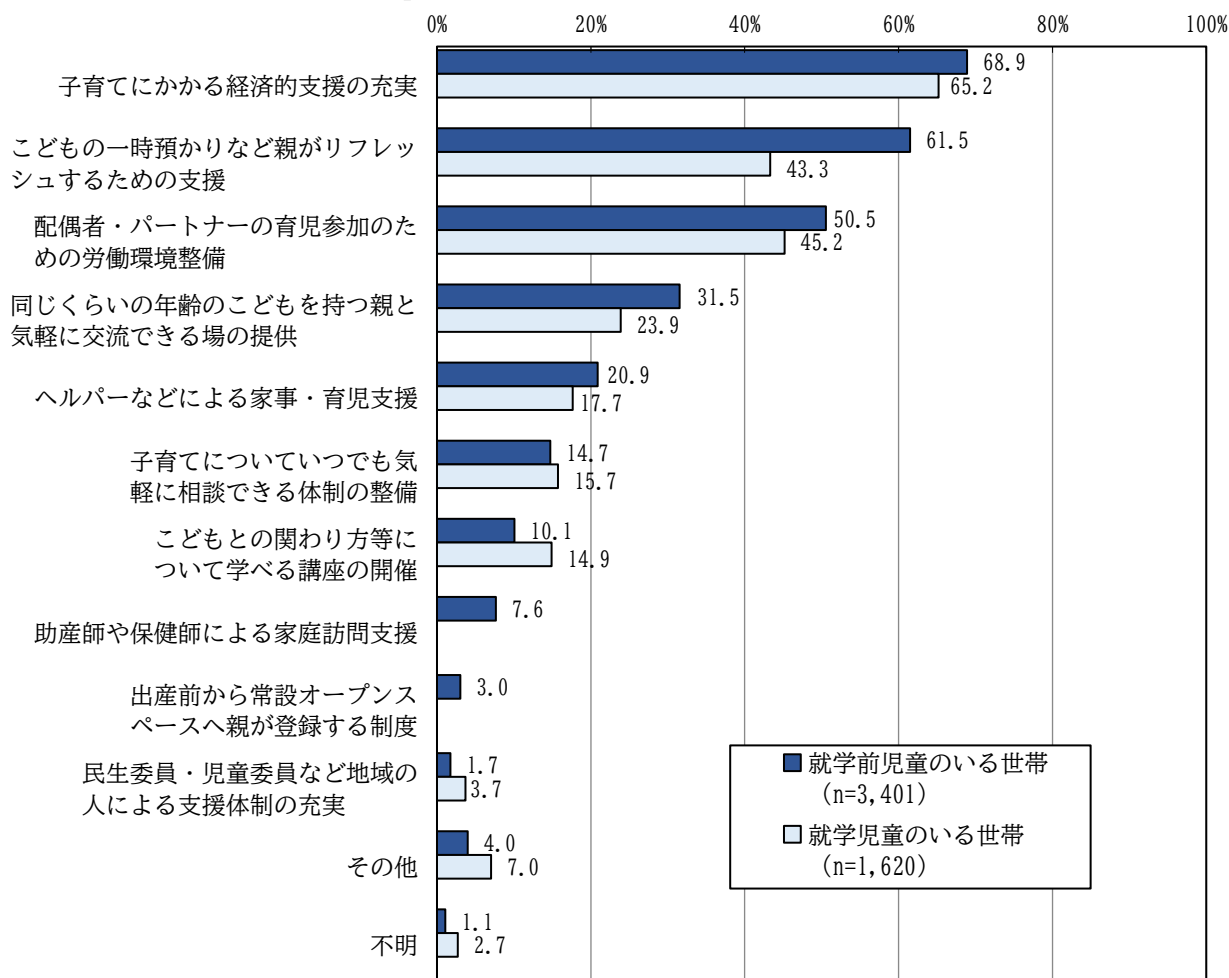
子育てを楽しんでいると感じることが多いか、つらいと感じることが多いかについて、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに50%以上が子育てを「楽しいと感じることが多い」と回答しているが、「つらいと感じることが多い」との回答も一定数あり、就学前児童のいる世帯で3.9%、就学児童のいる世帯で5.7%となっている。

子育ての精神的負担を減らすために必要な支援について、就学前児童のいる世帯、就学児童のいる世帯ともに「子育てにかかる経済的支援の充実」との回答が最も多く65%超となっており、次いで、就学前児童のいる世帯では「こどもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援」が61.5%、就学児童のいる世帯では「配偶者・パートナーの育児参加のための労働環境整備」が45.2%となっている。

Q23 子育てを楽しんでいると感じることが多いですか、つらいと感じることが多いですか。



Q24 子育ての精神的な負担を減らすために、どのような支援が必要ですか。（3つまで回答）



「こどもアンケート」の概要

(1) 調査目的 : こどもの悩みごとの相談状況、居場所の状況、国や市に意見を言いやすい手段や方法等を把握し、「広島市子ども・子育て支援事業計画」策定のための基礎資料とする。

(2) 調査実施方法 : 郵送配付回収、無記名自記式

(3) 調査時期 : 令和6年2月

(4) 調査対象者 : 広島市内に居住する小学生とその兄弟姉妹（小学生以上18歳未満）

(5) 送付数 : 就学児童（小学生）のいる世帯5,500世帯（各世帯3通、計16,500通）

「広島市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の対象世帯のうち、就学児童のいる世帯に「こどもアンケート」の調査票3通を同封

(6) 調査結果の表示方法 : ○ 表やグラフ中の「n」は、回答総数を表している。

○ 比率(%)は小数点以下第2位を四捨五入で算出しているため、合計が100%にならないことがある。

○ 表やグラフ、文章において、回答の選択肢等の表現を一部省略している場合がある。

(7) 送付数及び回収数 :

調査区分 (こどもの年齢)	送付数	回収数	回収率
小学校低学年 (6～8歳)	16,500通 (5,500世帯)	630通	-
小学校高学年 (9～11歳)		977通	-
中学生 (12～14歳)		566通	-
高校生 (15～17歳)		143通	-
不明		51通	-
計	16,500通	2,367通	14.3%

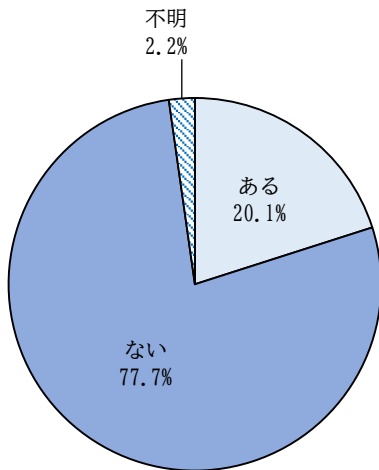
「こどもアンケート」の調査結果

1 悩みごと等の相談状況について

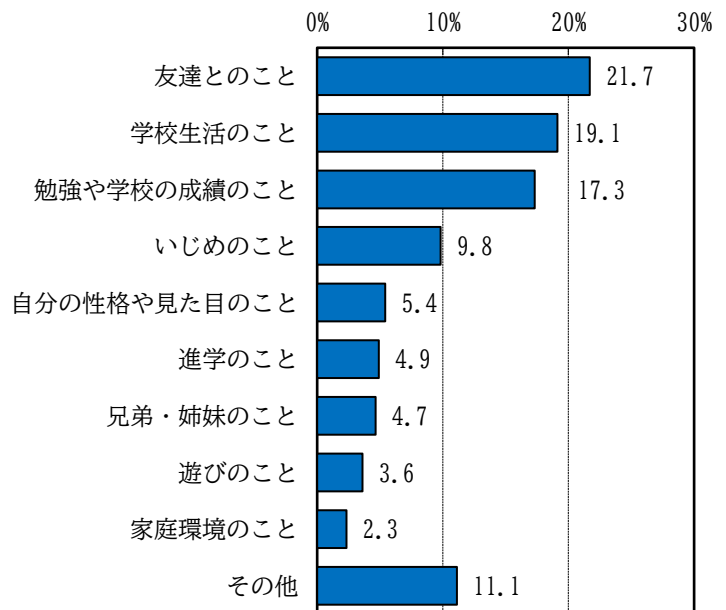
(1) 悩みごと等の有無

悩んでいることや困っていることの有無について、「ある」との回答が20.1%、「ない」との回答が77.7%となっている。悩んでいることや困っていることの内容は、「友達とのこと」が最も多く21.7%、次いで「学校生活のこと」が19.1%、「勉強や学校の成績のこと」が17.3%となっている。

Q1 悩んでいることや困っていることがありますか。
(n=2,367)



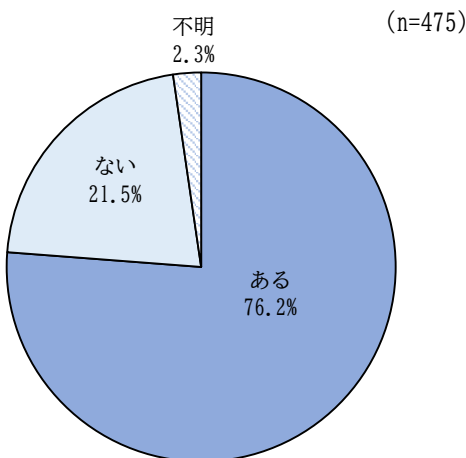
Q2 悩んでいることや困っていることは、どんなことですか。
(自由記述) (回答対象：悩みごと等があるこども) (n=387)



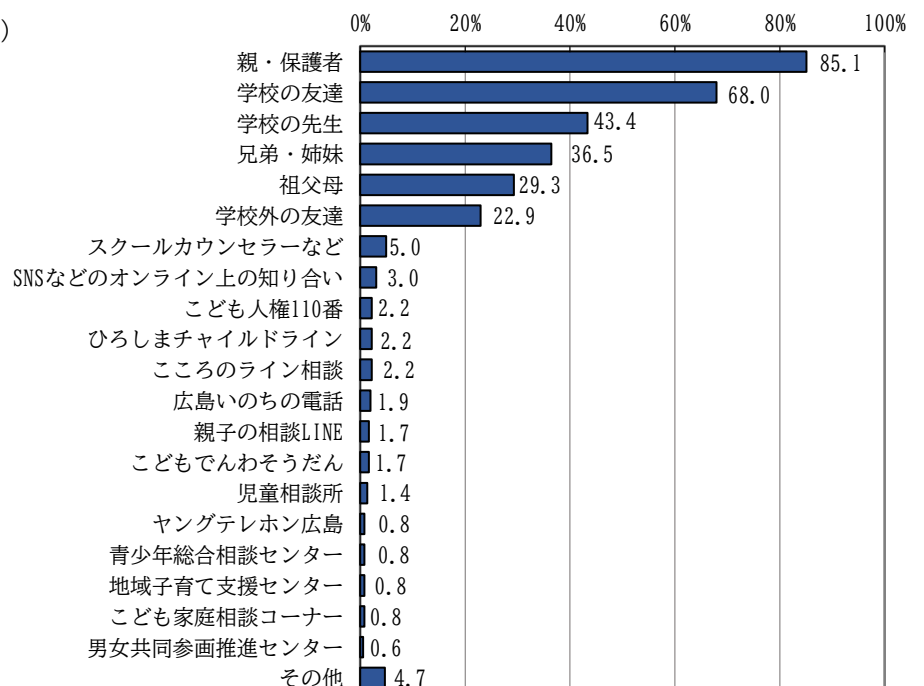
(2) 相談先の有無について

悩みごと等があると回答したこどもの「気軽になんでも話せて相談できる人や場所の有無」について、「ある」との回答が76.2%、「ない」との回答が21.5%となっており、具体的な相談先について、「親・保護者」との回答が最も多く85.1%、次いで「学校の友達」が68.0%、「学校の先生」が43.4%となっている。

Q3 気軽になんでも話せて、相談ができる人や場所はありますか。
(回答対象：悩みごと等があるこども) (n=475)



Q4 気軽になんでも話せて相談できる人や場所はどこですか。(複数回答)
(回答対象：気軽になんでも話せて相談できる人や場所があるこども) (n=362)

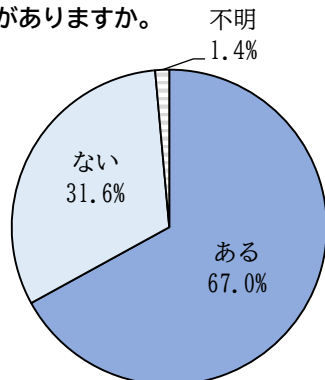


2 家や学校以外の居場所について

家や学校以外の居場所の有無について、「ある」との回答が67.0%、「ない」との回答が31.6%となっており、その内訳を見ると、居場所があると回答したこどもは中学生で最も多く、69.6%となっている。

Q5 家や学校以外で「ここに居たい」と感じる居場所がありますか。

(n=2,367)



(内訳)

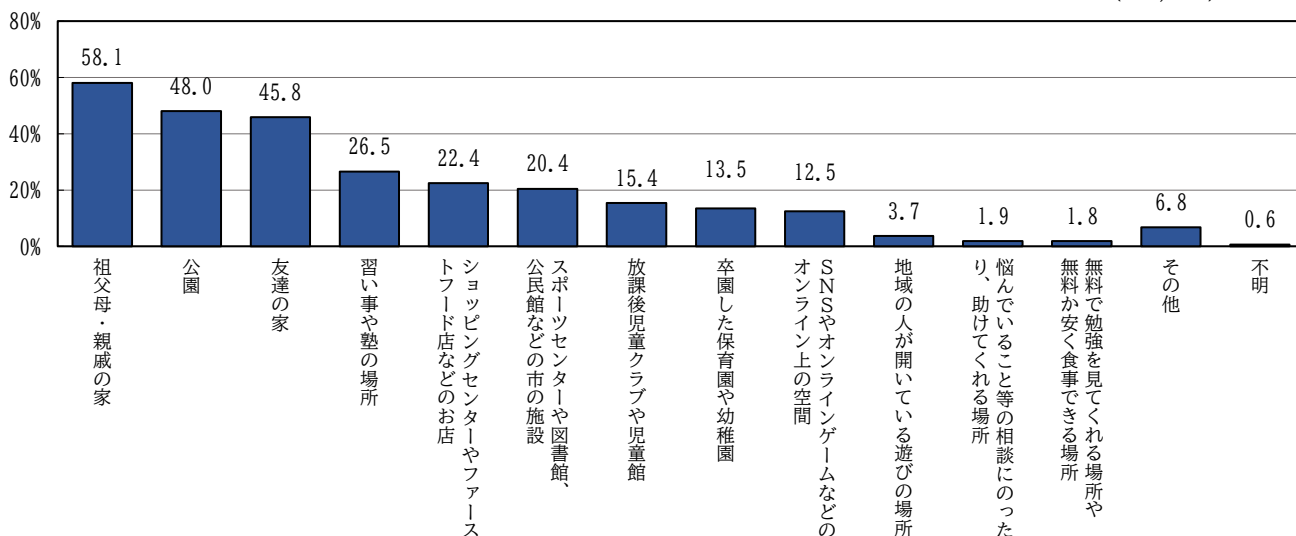
	ある	ない	不明
全体	67.0%	31.6%	1.4%
小学校低学年	67.8%	30.0%	2.2%
小学校高学年	66.4%	32.5%	1.0%
中学生	69.6%	29.3%	1.1%
高校生	60.8%	39.2%	0.0%
不明	56.9%	35.3%	7.8%

家や学校以外で居場所だと感じている場所について、「祖父母・親戚の家」との回答が最も多く58.1%となっており、次いで「公園」が48.0%となっている。その内訳を見ると、いずれの年齢区分でも「祖父母・親戚の家」との回答が最も多く、次いで、小学校低学年と高学年では「公園」との回答がそれぞれ55.0%と52.5%、中学生では「友達の家」が43.7%、高校生では「ショッピングセンターやファーストフード店などのお店」が37.9%と多くなっている。

Q6 家や学校以外で居場所だと感じている場所はどこですか。(複数回答)

(回答対象：家や学校以外で「ここに居たい」と感じる居場所があるこども)

(n=1,586)



(内訳)

	祖父母・親戚の家	公園	友達の家	習い事や塾の場所	ショッピングセンターやファーストフード店などの店	スポーツセンターや図書館、公民館などの市の施設	放課後児童クラブや児童館	卒園した保育園や幼稚園	SNSやオンラインゲームなどのオンライン上の空間	地域の人が開いている遊びの場所	悩んでいること等の相談にのった場所	無料で勉強を見られる場所や無料か安く食事できる場所	その他	不明
全体	58.1%	48.0%	45.8%	26.5%	22.4%	20.4%	15.4%	13.5%	12.5%	3.7%	1.9%	1.8%	6.8%	0.6%
小学校低学年	59.7%	55.0%	42.9%	25.3%	19.4%	21.1%	29.5%	26.0%	2.3%	4.7%	2.3%	2.1%	6.1%	0.7%
小学校高学年	60.9%	52.5%	50.2%	26.8%	18.6%	19.1%	13.9%	12.3%	10.0%	4.9%	2.0%	1.7%	7.1%	0.5%
中学生	52.0%	40.4%	43.7%	28.2%	29.7%	20.8%	6.1%	4.6%	23.9%	1.0%	1.3%	1.3%	6.6%	0.5%
高校生	60.9%	17.2%	37.9%	21.8%	37.9%	25.3%	1.1%	0.0%	31.0%	1.1%	2.3%	2.3%	5.7%	1.1%
不明	44.8%	41.4%	44.8%	31.0%	6.9%	17.2%	10.3%	17.2%	6.9%	3.4%	0.0%	6.9%	17.2%	0.0%

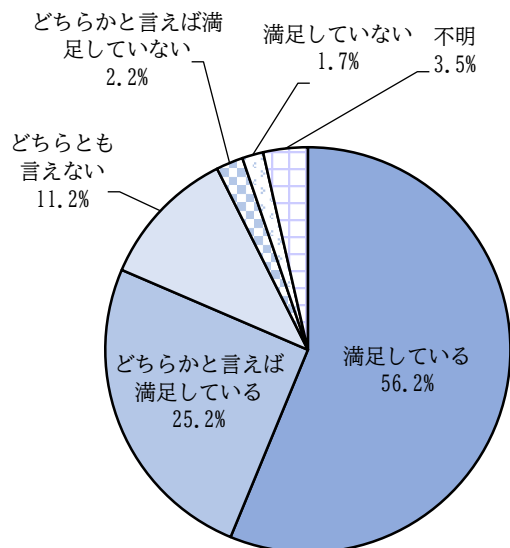
3 最近の生活の満足感について

最近の生活の満足感について、「満足している」との回答が最も多く 56.2%、次いで「どちらかと言えば満足している」が 25.2%、「どちらとも言えない」が 11.2%となっている。

その内訳を見ると、「満足している」と回答した割合が最も多いのは、小学校低学年で 59.8%となっており、最も低いのは高校生で 45.5%となっている。

Q7 最近の生活に満足していますか。

(n=2,367)



(内訳)

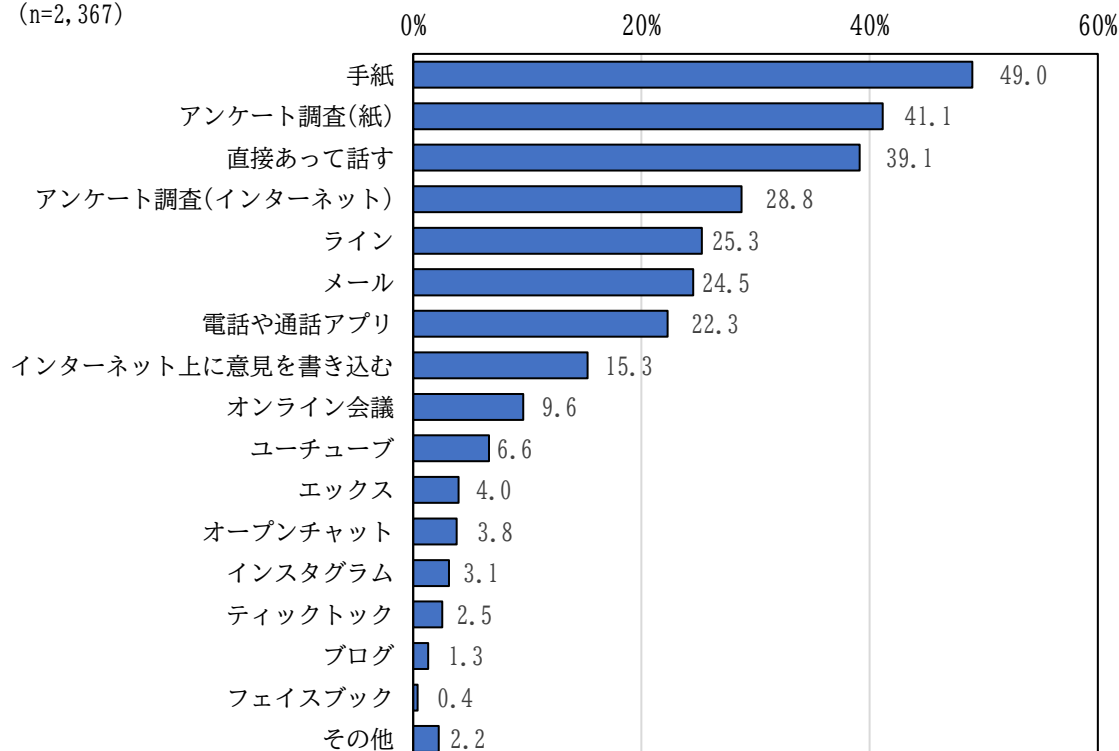
	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらとも言えない	どちらかと言えば満足していない	満足していない	不明
全体	56.2%	25.2%	11.2%	2.2%	1.7%	3.5%
小学校低学年	59.8%	20.5%	11.4%	1.1%	2.1%	5.1%
小学校高学年	56.6%	25.8%	9.2%	3.0%	2.0%	3.4%
中学生	54.1%	26.9%	14.3%	1.9%	0.7%	2.1%
高校生	45.5%	39.2%	9.8%	2.1%	1.4%	2.1%
不明	58.8%	15.7%	13.7%	2.0%	2.0%	7.8%

4 国や広島市への意見表明について

国や広島市に自分の気持ちや意見を言いやすい手段や方法について、「手紙」が最も多く 49.0%、「アンケート調査(紙)」が 41.1%、「直接あって話す」が 39.1%となっている。また、インターネットを利用した「アンケート調査」、「ライン」、「メール」はいずれも 20%超と多くなっている。

Q8 どのような手段や方法があれば国や広島市に自分の気持ちや意見を言いやすいですか。(3つまで回答)

(n=2,367)

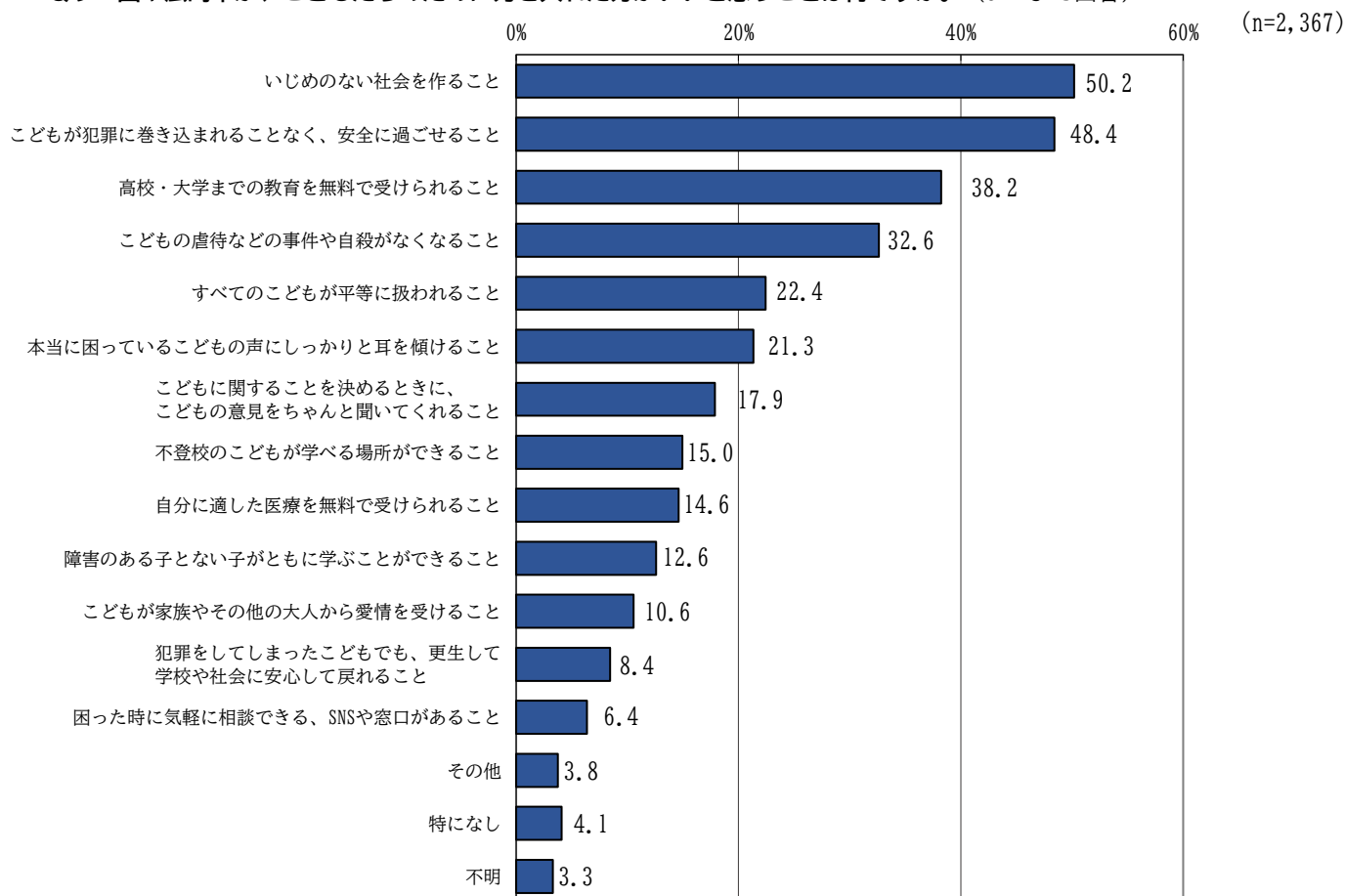


5 国や広島市が子どもたちのために力を入れた方がいいことについて

国や広島市が子どもたちのために力を入れたほうがいいと思うことについて、「いじめのない社会を作ること」との回答が最も多く 50.2%、次いで「子どもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること」が 48.4%、「高校・大学までの教育を無料で受けられること」が 38.2%、「子どもの虐待などの事件や自殺がなくなること」が 32.6%となっている。

内訳を見ると、最も多い回答は、小学校低学年では「子どもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること」で 61.4%、小学校高学年では「いじめのない社会を作ること」で 54.7%、中学生及び高校生では「高校・大学までの教育を無料で受けられること」でそれぞれ 48.6%、71.3%となっている。

Q9 国や広島市が、子どもたちのために力を入れた方がいいと思うことは何ですか。（3つまで回答）



(内訳)

	いじめのない社会を作ること	子どもが犯罪に巻き込まれることなく、安全に過ごせること	高校・大学までの教育を無料で受けられること	子どもの虐待などの事件や自殺がなくなること	すべての子どもが平等に扱われること	本当に困っている子どもの声にしっかりと耳を傾けること	子どもに関することを決めるときに、子どもの意見をちゃんと聞いてくれること	不登校の子どもが学べる場所ができること	自分に適した医療を無料で受けられること	障害のある子とない子がともに学ぶことができること	子どもが家族やその他の大人から愛情を受けること	犯罪をしてしまった子どもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること	困った時に気軽に相談できる、SNSや窓口があること	その他	特になし	不明
全体	50.2%	48.4%	38.2%	32.6%	22.4%	21.3%	17.9%	15.0%	14.6%	12.6%	10.6%	8.4%	6.4%	3.8%	4.1%	3.3%
小学校低学年	54.0%	61.4%	30.0%	28.1%	12.2%	20.2%	13.2%	11.9%	11.4%	9.8%	9.8%	8.7%	5.4%	2.7%	7.3%	5.2%
小学校高学年	54.7%	51.6%	33.2%	37.3%	28.7%	19.4%	18.2%	15.5%	12.9%	16.0%	10.8%	9.9%	7.9%	3.8%	3.2%	3.1%
中学生	43.8%	33.4%	48.6%	31.3%	25.1%	24.4%	20.8%	18.0%	19.6%	11.8%	10.2%	6.4%	4.9%	4.4%	2.7%	1.8%
高校生	29.4%	29.4%	71.3%	28.0%	15.4%	25.9%	23.8%	14.7%	21.7%	7.0%	13.3%	4.2%	5.6%	5.6%	0.7%	1.4%
不明	47.1%	47.1%	29.4%	27.5%	19.6%	25.5%	19.6%	9.8%	11.8%	5.9%	9.8%	11.8%	7.8%	3.9%	7.8%	5.9%

